

English follows Japanese

永遠と最後のこと - コリント人への手紙 第二 5:1-10

以前にもお話したヒッポのアウグスティヌスは、4～5世紀の教会の父で、教会史においてその時代に最も影響力のあった神学者です。今日は永遠と最後のことについて私たちが何を信じているのかについてお話ししたいと思います。アウグスティヌスの次の言葉は、彼の見解を要約するもので、この重要な教義について私たちがどのように考えればよいかの指針になるかと思っています。

「主の来臨を愛する者は、それが遠いと断言する者でもなく、近いと断言する者でもなく、むしろ、それが遠くても近くても誠実な信仰と確固たる希望と熱烈な愛をもってそれを待ち望む者である。」たくさんの方がキリストがいつ再臨されこの世が終わるのかについて、多くの時間を費やして議論しています。けれど、アウグスティヌスが指摘しているのは、私たちが重要視する点はこの真理が与えてくれる希望と、キリストの再臨に向けてどのように生きるべきかであるということです。終末とキリストの再臨について私たちが何を信じているのかを見るにあたり、私たち皆に影響を与える二つの側面について示されている聖書箇所を見ていきたいと思っています。今日の聖書箇所はコリント人への手紙 第二 5:1-10です。ここでは、私たちが死んだ後、それぞれにどのような未来が待ち受けているのか、そして神が歴史を動かされ向かわれる先にある永遠と万物の終わりについてが明らかにされています。今日は聖書が明確に示している未来の全体像について見ていきます。それはアウグスティヌスが聖書を学んだ末にたどり着いた真実でもあります。黙示録やダニエル書の一部など、未来について預言しているように見える箇所の具体的な解釈については最も重要なことではありませんし、ほとんどの場合は異なった解釈の余地がありますから、個々の教会が特定の解釈について強い立場を取ることは賢明とは言えません。それでは、お祈りしてから、今日の箇所を見ていきたいと思っています。

5章に進む前に、コリント人への手紙 第二の4章では、迫害にどう対応すべきかが語られています。そのうえで聖霊の靈感を受けたパウロは5章で、キリストとの関係ゆえに死に直面したとしても将来の希望を持つことができることを述べています。コリント人への手紙 第二 4:17は「私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。」と言っています。ここで語られている、死後にもたらされる永遠の栄光に思いを寄せながら、次にパウロは死後に信者を待ち受けている栄光という永遠の存在について語ります。5章の冒頭は次のように始まります。「たとえ私たちの地上の住まいである幕屋が壊れても、私たちには天に、神が下さる建物、人の手によらない永遠の住まいがあることを、私たちは知っています。」パウロは使途の働き 18:3によれば天幕作りを生業としていましたが、ここでは天幕についての知識を私たち人間の体の例えに用いています。私たちの今ある体は天幕のようなものです。天幕というのはそれほど長持ちしません。私はハイキングが大好きなのですが、以前はバックパッキングやキャンプに可能な限り出かけていたのですが、それでも満足できないほどでした。この30年の間におそらく6から7種類のテントを持ちましたが、今持っているものも含め全てがどこか破れたり壊れたりして、使い物にならなくなったり、修理が必要だったり、結局はゴミになりました。永遠という視点で、終わることのない完全な栄光を思う時、私たちの体はこのテントのようなものです。バラバラになり、壊れます。病気になったり、機能しなくなったりします。最後には衰えて死んでいくのです。この天幕の例えと、パウロが語る私たちの永遠の未来を比べてみましょう。パウロはこれを建物、住まいであるといいます。それは短期的な構造物ではありません。はるかに永続的なもので、テントのように消耗することなく、神がおられる限り、つまり永遠に続く体です。決して終わらないのです。

ここでパウロが語っていることの重要性は何でしょうか。それは私たちがキリストを知っているのなら、永遠を待ち望むことができるということです。そしてそのことは多くの方が考えているものとはかなり違うものです。大抵私たちは、将来雲の上に座ってハープを弾いている姿や天国と呼ばれる空のどこかで実体のない霊として浮かんでいる姿を想像します。もしかしたら日本の仏教思想の影響から、魂が死の川（三途の川）を渡り、無事にあの世に行くためには何らかの通行料を払わなくてはならないと思っている人もいるかもしれません。パウロは2-4節で、私たち

が持つ未来に対する誤解を指摘しています。「私たちはこの幕屋にあってうめき、天から与えられる住まいを着たいと切望しています。3. その幕屋を脱いだとしても、私たちは裸の状態にいることはありません。4. 確かにこの幕屋のうちにいる間、私たちは重荷を負ってうめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいからではありません。死ぬはずのものが、いのちによって呑み込まれるために、天からの住まいを上に着たいからです。」パウロは、私たちが待ち望んでいる天国での永遠とは、体のない霊の生活ではなく、今与えられている体が完全にされた生活だと言っています。4節に書かれているように、今私たちに「重荷」となっている幕屋や体は永遠の命にあって完全とされ「着せられる」のです。

私たちの肉体的な死と、キリストの再臨と全ての終わりの間に、最終的な復活までそのような新しい肉体で待つ期間があることを聖書は示しているように見えます。テサロニケ人への手紙第一 4:16には「すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり」とあります。この箇所から、死んだ信徒の体はキリストが再び来られるまで復活しないことが明らかです。ですが、魂の眠りについたような状態にあるのではなく、死んだ直後に天国で神と共に在るのです。少し飛ばしてコリント人への手紙 第二 5:8を見ると、パウロが「むしろ肉体を離れて、主のみもとに住むほうがよいと思っています。」と言っています。ですから、肉体から離れている、つまり死んでいるということは、神のもとにいるということなのです。煉獄と言った中間の状態はありません。あなたの罪は既にイエス・キリストが十字架上で贖ってくださいました。ローマ人への手紙 8:1には「こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」とはっきり書かれています。ですが、このことは命ある間にキリストを知ることがなかった人には、死が相応の結果をもたらすことも意味します。聖書にはイエス・キリストを受け入れない人たちのために苦しみを受ける場所があると書かれています。クリスチャンにとってさえ、このことについて考えるのは気が進まず楽しいことではありませんが、キリストを拒絶する者に裁きがあることを聖書は明確に示しています。そしてそれは、キリストを知る者が報いを受けるのと同じく、死によって始まるのです。ルカによる福音書でイエスは金持ちとラザロという男の話をしています。ラザロは貧しいながらも神への信仰を持ち、それが報われて死んだ後に楽園、天国での永遠の命を得ることができました。一方、金持ちの男は自分の救いを神ではなく富に頼っていたために、異なった永遠が待ち受けていました。ルカの福音書 16:22-23には「しばらくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懷に連れて行かれた。金持ちもまた、死んで葬られた。23. 金持ちが、よみでしみながら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懷にいるラザロが見えた。」とあります。「よみ」と訳されているギリシャ語のハデスという言葉は、私たちが地獄と呼ぶ場所を表す言葉です。私たちの死後、キリストを受け入れる機会がもう一度与えられるとは聖書のどこにも書かれていません。もしこの場にいらっしゃる方で、イエス・キリストを信じていない、無償で与えられる救いの賜物を受け入れていないというならば、皆さんの死後には、最悪な言葉で表現された場所での苦悩が待ち受けています。是非、手遅れになる前に、慈悲深い神が、あなたの罪のため、あなたの代わりに御子イエス・キリストを死に引き渡し、お与えくださる恵みを考えてみて欲しいのです。ロンドン信仰告白の第31章には、これまで見てきたことがまとめられています。「義人の靈魂はその時に聖さにおいて完全なものとされてパラダイスに受け入れられ、そこでキリストと共におり、自分の体の完全な贖いを待ちながら、光と栄光のうちに神のみ顔を見る。悪人の靈魂は地獄に投げ入れられそこで苦悩と全く暗黒のうちに留められ大いなる日の審判まで閉じこめられる。」聖書は、この体が単に使い捨てされるものではなく、憎むべきものでも好きなようにできると考えるものでもないと教えています。復活の後、イエスは私たちのもつ肉の体ができないような、鍵がかかったドアを通り抜けたり、天に昇られたりしましたが、その姿をイエスであると認識できたように、私たちも自分たちの霊が不滅で完全な体と一つにされ、永遠に生きることを待ち望みます。第3パラグラフでは、私たちの永遠の存在が肉体をもったものであるという聖書の教えをまとめています。「不義なる者の体はキリストの力によって恥辱へとよみがえらせられ、義人の体はキ

リストの御霊によって栄誉へとよみがえらせられ、キリストの栄光の体に似るものとされる。」つまり復活した体と共にある永遠の命が、すべての信者の未来なのです。

そして神はその未来を保証するものを与えてくださいました。コリント人への手紙 第二 5:5 を見て下さい。「そうなるのにふさわしく私たちを整えてくださったのは、神です。神はその保証として御霊を下さいました。」信徒の人生に聖霊が働かれ、私たちの内に聖霊がいて下さることは、そうした未来が私たちに保証されていることを示す、神の刻印であり印なのです。エペソ人への手紙 1:13-14 には「このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことは、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。14. 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとなされ、神の栄光がほめたたえられるためです。」とあります。ここまで見てきて、将来、完全な体が約束されている一方で、現状はむしろ厳しく思えます。2 節と 4 節では、私たちが地上で今の肉体を持って生きている期間を「うめいている」と表現しています。パウロは 4 章で私たちがキリストに従うために迫害されるだろうと言った後に、このことを述べています。また私たちの多くが、年を重ねるごとに経験する身体的な問題を承知しています。肉体的な面で、精神的あるいは感情的な面においても、体が痛みをうめいているというのは、かなりの的を得た表現ではないでしょうか。

人間である私たちは皆、程度の差こそあれ、人生の中で時にそのような時に直面します。けれどキリストを知っている私たちにとって、この未来についての知識は 6-8 節に続くように、私たちが皆経験するこのうめきに対する答えを与えてくれます。「ですから、私たちはいつも心強いのです。ただし、肉体を住まいとしている間は、私たちは主から離れているということも知っています。7. 私たちは見えるものによらず、信仰によって歩んでいます。8. 私たちは心強いのですが、むしろ肉体を離れて、主のみもとに住むほうがよいと思っています。」ですから、2 節と 4 節にあるように、私たちはうめきますが、6 節と 8 節では将来についての確信ゆえに、私たちは勇気をもって人生に向き合うのです。心強いと訳されている言葉は、より正確に訳すならば信頼しているとも言えます。私たちは心強くこの人生を歩みます。それは私たちは未来を知っているのです。心配や恐れではなく、自信と慰めを得られるからです。たとえ私たちの体に最悪のことが起こり、機能しなくなって死んだとしても、「肉体を離れ」ることは「主のみもとに住む」ことだと確信しています。

それこそが私たちの永遠の状態です。この地上での人生は、永遠に比べればほんのわずかな時間に過ぎませんが、その完全な存在になるための備えの時として費やされるべき時間です。ですからパウロは 9 節にあるように「そういうわけで、肉体を住まいとしても、肉体を離れていても、私たちが心から願うのは、主に喜ばれることです。」という言葉で結んでいます。私たちの真の住まいは主と共にあります。ですから私たちを待ち受けている未来とその住まいを認識したうえで、私たちの人生を生きているのです。事実、すべての人の未来にイエス・キリストが関わっています。パウロは信徒としての私たち個人個人の永遠ではなく、全人類が直面する未来にフォーカスしています。聖書的な観点から週末やこの世の終わりについて考えるとき、ほとんどの人が思い浮かべるのは正にこのことです。パウロは聖書が教えていることをこのコリント人への手紙 第二 5:10 一説にまとめています。「私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。」いつ、どのようにという点では意見が分かれるかもしれませんが、キリストが再臨し、これまでに生きた全ての人々がイエス・キリストによって裁かれる日が来るという点では、全ての信徒が一致しています。ロンドン信仰告白第 32 章第一パラグラフにはこうあります。「神はイエス・キリストにより義をもって世界を審く日を定められた。キリストには父よりあらゆる権能とさばきが与えられていて、その日には背教のみ使いたちが審かれるだけでなく、地上に生存していたあらゆる人々も、彼らの思いと言葉と行為の申し開きをして、善悪いずれも彼らが肉体で行ったことに応じて報いを受けるために、キリストの法廷の前にあらわれる。」私たちが真

に義と認められるには、イエス・キリストの犠牲と新約の時代にある人々のキリストへの信仰、あるいは旧約の時代に罪からの救いのための備えを神に認めた人々の信仰に基づく以外にありません。聖なる神に対して犯した罪のため、皆が完全に義なる裁き主である子なる神によって裁かれることは確実です。ですが、イエス・キリストを知っているならば、その裁きは究極の赦しと祝福をもたらします。ですからイエス・キリストの再臨は私たちに希望を与えるのです（それはコリント人への手紙 第二の5章で語られている確信に満ちた勇気です）。テサロニケ人への手紙第一で、パウロは私たちが見出す希望を、将来の永遠の存在と同じく、キリストの再臨と結び付けています。テサロニケ人への手紙 第一 4:16-18は「すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、17. それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。1こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。18. ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」と語っています。最後の審判を含めてキリストの再臨は、キリストをしっているのであれば、恐れではなく励ましとなるはずですが。私たちが目指すべきことは、単に天国になんとか入ることではなく、救い主の愛の腕の中に喜びをもって入ることです。それは御言葉を通して知り、様々な選択において従ってきた方と再会するとき、帰郷のお祝いとなるものです。黙示録では、これらのことが世の終わりに全て達成されるとき、救い主の前で捧げられる礼拝の様子が描かれています。ヨハネの黙示録 7:9-12にはこのように書かれています。「その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。10. 彼らは大声で叫んだ。「救いは、御座に着いておられる私たちの神と、子羊にある。」11. 御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物の周りに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を礼拝して言った。12. 「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、私たちの神に世々限りなくあるように。アーメン。」」全てはここに向かっていて、皆さんはキリストに会う準備ができていますか。いつイエスが来られてもよいように生きていますか。ロンドン信仰告白の第32章第3パラグラフは、神がキリストの再臨の日を秘密にしておられるのは、神の民である私たちが「いつも備えをして「来たりたまえ、主イエスよ。すみやかに来たりたまえ」と言うためである。アーメン」と力強い言葉で締めくくられています。

その時を待つ間、キリストは聖餐式を与えてくださいました。それは、私たちに未来を与えてくださるためのキリストの死を私たちが覚えるためです。ですから、私たちは救いがもたらす希望を覚え、この主の晩餐に与るのです。既にイエス・キリストを救い主として受け入れ、バプテスマを受けられた方は、どうぞ共に主の晩餐に与ってください。私が祈った後、執事が四隅でパンとジュースをお配りしますので、その後共に晩餐に与ります。祈りましょう。

What We Believe: Eternity and Last Things - 2 Corinthians 5:1-10

Augustine of Hippo, who we have discussed before, was a 4th and 5th Century church father who is the most influential theologian of that part of church history. Today we are going to discuss what we believe about eternity and last things. This quote from Augustine summarizes his view, and how I would encourage us to think about this important topic of doctrine. *“He who loves the coming of the Lord is not he who affirms that it is far off, nor is it he who says it is near, but rather he who, whether it be far off or near, awaits it with sincere faith, steadfast hope, and fervent love.”* Too many people waste a lot of time arguing over when they think Christ is coming back and the world will end. But Augustine pointed out the truth that as believers, our focus needs to be on the hope this truth gives us and the way we should live our lives in response to his coming. As we examine what we believe about End Times and Christ’s return, I want to go to a passage that shows two aspects of our future that will affect all of us. 2 Corinthians 5:1-10 is where we will be today. In this passage, we see both the individual future that awaits us after we die and eternity and end of all things that God is moving history toward. Today is about the big picture of the future that the Bible is very clear about, the same place Augustine ended up at as he studied scripture. When it comes to specific interpretations of the Book of Revelation, parts of Daniel and other places that seem to prophecy about the future, those are secondary and in most cases so open to different interpretations that it would be unwise for a local church to take a strong stand on a particular interpretation. With that said, *let’s pray* and then get into our passage for today.

Before we get to chapter 5, chapter 4 of 2 Corinthians sets the stage by talking about responding to persecution. Then Paul under the inspiration of the Holy Spirit transitions to chapter 5 focusing on the future hope we have even in the face of death because of our relationship with Christ. 2 Corinthians 4:17 says, *“For this light momentary affliction is preparing for us an eternal weight of glory beyond all comparison…”* With that picture in mind of the eternal glory that awaits us after death, Paul then moves to talk about this eternal existence of glorification that awaits the believer after death. So, he begins chapter 5 with this statement. *“For we know that if the tent that is our earthly home is destroyed, we have a building from God, a house not made with hands, eternal in the heavens.”* Now, Paul was a tentmaker by trade according Acts 18:3, and here he uses his knowledge of tents as an analogy for our human bodies. Our current body is like a tent. Now tents don’t last very long. I love hiking. I used to do as much backpacking and camping as I could, which was never enough. I have owned probably 6 or 7 different tents in the last 30 years, and all of them including the one I currently have were torn or broke in some way, making them useless or needing repairs and eventually being trashed. In light of eternity, never ending perfect glory, this is the way our bodies are. They fall apart. They break down. They get sick. They stop working. They eventually wear out and we die. Now compare that tent illustration with how he talks about our future in eternity. He says it is a building, a house. This isn’t a short term structure. This is something far more permanent, a body that doesn’t wear out like a tent, but lasts for as long as God lasts – for eternity. It never ends!

What is the importance of what Paul is saying here? It shows us what we can look forward to for our eternity if we know Christ. And this picture is very different than

what many think. Many times, we picture some sort of future sitting around on clouds playing a harp or floating around in some place in the sky called Heaven as a disembodied spirit. Perhaps, you may have ideas that are influenced by Japanese Buddhist philosophy of a soul passing over the river of death (Sanzu no Kawa) and needing to pay some sort of fee to enter safely into the afterlife. Paul addresses our misunderstanding of our future as he continues in verses 2-4. **²For in this tent we groan, longing to put on our heavenly dwelling, ³if indeed by putting it on^[a] we may not be found naked. ⁴For while we are still in this tent, we groan, being burdened—not that we would be unclothed, but that we would be further clothed, so that what is mortal may be swallowed up by life.** Paul is telling us that what we have to look forward to in our eternal existence in Heaven is not the life of a disembodied spirit, but one where the body we have now is perfected. Our tent or body that right now “burdens” us as verse 4 says will be perfected – “further clothed” in eternal life.

The Bible seems to indicate that there will be a period between our physical death and Christ’s return and the end of all things that we will be waiting on those new physical bodies until the final resurrection. **1 Thessalonians 4:16 says, For the Lord himself will descend from heaven with a cry of command, with the voice of an archangel, and with the sound of the trumpet of God. And the dead in Christ will rise first.** So, it is clear the bodies of dead believers are not resurrected until Christ returns. But, we are not in some sort of soul sleep, but present with God in Heaven immediately upon death. Skipping ahead to the end of verse 8 in 2 Corinthians 5, Paul says, **we would rather be away from the body and at home with the Lord.** So, to be away from the body – dead – means that we are present with God. There is no intermediate state of purgatory. Your sins were already paid for by Jesus Christ on the cross. **Romans 8:1 is clear… There is therefore now no condemnation for those who are in Christ Jesus.** However, this also means that for those who do not know Christ in life, there is an immediate response at death as well. The Bible talks about a place of torment for those who do not accept Jesus Christ. I know that even as Christians its not popular or pleasant to think about but the Bible is clear that there is judgement for those who reject Christ. And it begins at death just as the reward begins for those who know Christ. In Luke, Jesus recounts a story of a rich man and a man named Lazarus. Lazarus, although he is poor has faith in God, which is rewarded with eternal life in paradise or Heaven after death. The rich man, on the other hand, who has relied on riches and not on God for his salvation has a different eternity. **Luke 16: 22-23 says, The rich man also died and was buried, 23and in Hades, being in torment, he lifted up his eyes and saw Abraham far off and Lazarus at his side.** Hades is the Greek word typically used to describe the place we call hell. The Bible never gives any indication of a second chance after death to accept Christ. If you are here and have not believed in Jesus Christ and accepted his free gift of salvation the torment of a place described in the worst possible terms is what awaits you after death. I plead with you to consider the alternative and the grace that a merciful God is extending to you by sending his son, Jesus Christ to die in your place for your sin. …before its too late.

The London Confession summarizes what we have seen so far in **Chapter 31. Paragraph 1 that says, [After death], …the souls of the righteous, which are then made perfect in holiness, are received into heaven, where they are with Christ and behold the face of God in light and glory. There, they wait for the full redemption of their bodies. The souls of the wicked are cast into hell, where they remain in torment and utter darkness,**

reserved for the judgment of the great day. We also see that the Bible teaches that this body is not just disposable, and something we should hate or think we can do with it whatever we want to do. Just as Jesus was recognized after his resurrection, but his body could do things our mortal bodies cannot, like walk through locked doors and ascend up into Heaven, we look forward to our souls begin reunited with immortal perfect bodies to live out eternity. Paragraph 3 summarizes the Bible's teaching on our eternal existence being a bodily one. The bodies of the unjust will be raised to dishonor by the power of Christ. The bodies of the just will be raised to honor by his Spirit and be conformed to Christ's own glorious body. So, eternal life with a resurrected body is the future of all believers.

And God has given us a guarantee of that future. Look at verse 5 of 2 Corinthians 5. ⁵He who has prepared us for this very thing is God, who has given us the Spirit as a guarantee. The Holy Spirit working in the life of a believer, and his presence within us is God's stamp or seal on us that we are guaranteed this future. Ephesians 1:13-14 says, In him you also, when you heard the word of truth, the gospel of your salvation, and believed in him, were sealed with the promised Holy Spirit, 14 who is the guarantee of our inheritance until we acquire possession of it, to the praise of his glory. So far in these verses, while we are promised this future perfect body, the present seems rather bleak. Verse 2 and verse 4 both describe our time here on earth in this present body as "groaning." He has led into this description by saying in chapter 4 that we are going to be persecuted for following Christ. And most of us understand the physical problems that happen as we grow older. It's a pretty apt description that our bodies are groaning in pain, whether physical, spiritual, mental or emotional.

All of us who are human face this in our lives to one degree or another and from time to time. But for those of us who know Christ, this knowledge of our future gives us an answer to this groaning that we all will experience as verses 6-8 continue. ⁶So we are always of good courage. We know that while we are at home in the body we are away from the Lord, ⁷for we walk by faith, not by sight. ⁸Yes, we are of good courage, and we would rather be away from the body and at home with the Lord. So, yes, we groan as we see in verses 2 and 4, but we face life with courage in verses 6 and 8 because of the certainty of our future. Another word for courage that this can be correctly translated as is confidence. We go through this life with courage, because the knowledge of our future gives us confidence and comfort, not worry and fear. Even if the worst happens to our body and it ceases to function and we die, we are confident that to be "away from the body" is to be "at home with the Lord."

That is our eternal state. Our life here on earth that is a tiny speck of time in light of eternity should be spent preparing for that perfect existence. So, Paul leads to his conclusion with the words of verse 9, So whether we are at home or away, we make it our aim to please him. Our true home is with our Lord. So, we live our lives in recognition of that home and the future that awaits us. In fact, everyone's future will involve Jesus Christ. Paul doesn't leave the focus on our individual eternity as a believer, but on the future that all humanity faces. This is really what most people think about when they think about end times and the end of the world from a Biblical perspective. Paul summarizes what the Bible teaches in this one verse 2 Corinthians 5:10, For we must all appear before the judgment seat of Christ, so that each one may receive what is due for what he has done in the body, whether good or evil. There may be disagreement over

the when and how, but all believers agree on the point that there is a day coming when Christ will return and all who have ever lived will be judged by Jesus Christ. **Chapter 32, paragraph 1 of the London Confession says, God has appointed a day when he will judge the world in righteousness by Jesus Christ. 1 Jesus is given all power and judgment by the Father. On this day...all people who have ever lived on the earth will appear before the judgment seat of Christ to give an account of their thoughts, words, and deeds. They will receive according to what they have done in the body, whether good or evil.** The only way we can ever be truly found to be good is based on the sacrifice of Jesus Christ and our faith in Christ since the time of the New Testament or their faith in God for provision for salvation from sin in the Old Testament. Be sure of this...you will be judged by a completely righteous judge – God the Son – for the sin that you have committed against a holy God. If we know Jesus Christ, though, that judgement will result in ultimate forgiveness and blessing. That is why the return of Jesus Christ should give us hope. (It's that confident courage that 2 Corinthians 5 spoke about) In 1 Thessalonians, Paul ties that hope we find directly to Christ's return, just as he did to our future eternal existence. **1 Thessalonians 4:16-18 says, For the Lord himself will descend from heaven with a cry of command, with the voice of an archangel, and with the sound of the trumpet of God. And the dead in Christ will rise first. 17Then we who are alive, who are left, will be caught up together with them in the clouds to meet the Lord in the air, and so we will always be with the Lord. 18Therefore encourage one another with these words.** The return of Christ that includes the final judgement should be a point of encouragement, not fear, if we know Christ. What we should be striving for in this life is to not just slip into heaven, but enter joyfully into the loving arms of our Savior. It should be a homecoming celebration as we are reunited with the one we have spent our life getting to know through his Word and following with our life choices. Revelation describes the worship service that takes place before our Savior when all of this is accomplished at the end of time. **Revelation 7:9-12 says, 9 After this I looked, and behold, a great multitude that no one could number, from every nation, from all tribes and peoples and languages, standing before the throne and before the Lamb, clothed in white robes, with palm branches in their hands, 10 and crying out with a loud voice, "Salvation belongs to our God who sits on the throne, and to the Lamb!" 11 And all the angels were standing around the throne and around the elders and the four living creatures, and they fell on their faces before the throne and worshiped God, 12 saying, "Amen! Blessing and glory and wisdom and thanksgiving and honor and power and might be to our God forever and ever! Amen."** This is where everything is heading. Are you prepared to meet Christ? Are you living as if Jesus could come at any time? The London Confession makes the powerful closing statement in chapter 32, paragraph 3 that the reason God keeps the day of Christ's return secret is so we as his people **"can constantly be prepared to say, "Come Lord Jesus. Come quickly." 10 Amen.**

In the meantime, Christ has given us this Communion meal to remember his death that provides us the future that he offers. And so we take this meal in remembrance of the reason we have the hope salvation provides. If you have accepted Jesus Christ as your Savior and been baptized then we invite you to join us for this Lord's Supper meal today. After I pray, the Deacons will serve the prepackaged bread and juice from the 4 corners of the sanctuary and then we will eat and drink them together. Let's pray.